

そよかぜ

2020年1月 Vol.32 冬号

病院の理念

私たちは
「ゆるぎない信頼、心からの満足」
をしていただける病院を目指します。
人としての尊厳を重視した上で専門医療(国
の定める政策医療)に誇りをもち、地域の
皆様が安心して心身ともに癒される医療を
受けていただけるよう全力を尽くします。

CONTENTS

年頭のご挨拶	2
令和元年度岡山県結核診療連携拠点病院研修会開催	3
「活き息さわやかに過ごす会」を開催しました!	3
職場紹介 臨床検査科	4
第73回国立病院総合医学会ベストポスター賞受賞	5
いきいき広場に参加させていただきました!	6
神経・筋(神経難病)診療初級・入門研修	6
共育レターvol.7	7
健康教室を開催しました	8
治験管理室からのお知らせ	9
クリスマス聖歌隊による演奏会がありました	9
外来診療担当医師一覧表	10





年頭のご挨拶

国立病院機構 南岡山医療センター 院長
谷 本 安

令和2年を迎えるにあたり、当院の運営につきましては平素より皆様の格別のご理解とご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

昨年は5月に病棟の再編成を行い、そして9月には公立病院・公的病院再編・統合の再検証の対象病院に挙げられ、その風評被害への対応などで何かと大変な1年でした。その中で、経営状況は黒字化が見えるところまで改善してまいりました。当院は①地域包括ケアシステムの構築において地域の病院として果たすべき急性期・回復期の医療、②国立病院機構がこれまで大きな役割を果たしてきたセーフティネット系医療（重症心身障害、神経・筋難病）を引き続きしっかりと担っていく所存です。昨年10月5日には第31回日本老年医学会中国地方会を私が会長として岡山大学鹿田キャンパスで開催させていただきました。当院からも5演題の発表を行いました。高齢者医療に関しましても地域に向けての情報発信に努めてまいります。また、一昨年9月に岡山県アレルギー疾患医療拠点病院に指定され、昨年はアレルギー疾患対策推進事業として岡山県のアレルギー診療実態調査や医療従事者・教育関係者向けの研修会を企画・実施させていただきました。結核とともにアレルギー診療につきましても当院のプレゼンスをさらに高めていきたいと考えています。

昨年の流行語大賞（年間大賞）は「ONE TEAM（ワンチーム）」でした。史上初のワールドカップ8強入りを果たしたラグビー日本代表のスローガンです。医療の現場（病院）においては、院内の多職種によるONE TEAMが今や当たり前になっておりますし、地域包括ケアシステムの構築に関しても、地域全体の関係者がONE TEAMになる必要があります。「患者様に寄り添い支える」病院として、地域包括ケアシステム（ONE TEAM）のメンバーとして、患者様や地域の皆様から信頼と満足をいただけるよう、引き続き取組んでまいりますので、本年もご指導ご支援の程、よろしくお願ひ申し上げます。



令和元年度 岡山県結核診療連携拠点病院研修会開催

診療・業務支援顧問 河田 典子

岡山県結核診療拠点病院研修会が、令和元年11月21日(木曜日)三木記念ホールにて開催されました。結核拠点病院研修会は平成25年度から開催され、今回で8回目となり毎年多くの医療関係者の方々にご参加頂いておりますが、今回も岡山県下より81の医療機関を始めとして、社会福祉施設や行政機関などから計209名の方が研修会に参加されました。昨年の岡山県の結核罹患率(人口10万対)は9.9まで低下して10以下となり、全国平均に先駆けて目標である結核低蔓延状態となりました。しかしながら、初診から診断までに1か月以上を要した割合(結核の診断の遅れ)は、全国平均を上回っており、高齢者を中心とした結核診断の困難さを考えると、まだまだ課題が多いのが現状です。



今回、そうした状況を鑑みて「日常臨床に活かす結核診断のアプローチ」をテーマに、国立病院機構東京病院の永井英明先生より「IGRAの適切な解釈と活用法について」と題して講演していただきました。IGRA(インターフェロンγ遊離試験)は結核の感染を調べる検査としてツベルクリン反応に代わって接触者健診などに広く用いられておりますが、比較的新しい検査法のため、実際の現場ではその解釈や活用法において様々な問題が挙げられています。永井先生からIGRA検査の基礎知識と基本的な活用法を分かりやすく講演していただき、ご自身の臨床データならびに文献をもとに、臨床面でのIGRA検査活用法の今後の可能性についてもお話しいたしました。

また、岡山県健康づくり財団病院と当院の医師により、「見逃されやすい結核の事例と画像」をテーマとしてパネルディスカッションを行いました。特に高齢者の結核診断は難しいケースが多く、施設での集団感染を防ぐ必要があり、結核の早期発見に向けた画像診断のポイントや臨床症状での注意点などを複数の症例を提示しながら話し合いました。

今回は、日常の臨床診断がテーマだったこともあり、医師、検査技師の方の出席が例年より多く、終了後に行いましたアンケートでも、今後のIGRA検査の使用に役立ったという意見が多数寄せられました。今回の研修が少しでも皆様の臨床にとってお役に立てば幸いです。

来年度は、ここ最近増加している外国人結核について、診断、治療などにおける問題点を岡山県の状況を踏まえて考えていく予定です。今後とも引き続きよろしくお願いたします。

「生き息さわやかに過ごす会」を開催しました!

呼吸ケアチーム
田中 貴大

令和元年10月19日(土)に、呼吸ケアチームによる研修会「生き息さわやかに過ごす会」を開催しました。今年も「地域に向けた在宅呼吸ケア」と題し、酸素療法や人工呼吸器を用いて在宅で暮らしていくことについて研修を行いました。患者さんやそのご家族・近隣のケアマネージャーの方など合計43人の方に参加いただき、無事終了いたしましたので、この場を借りて御礼とご報告をいたします。

今年は「慢性呼吸不全と上手に付き合っていくために」というテーマで肺気腫・誤嚥性肺炎の方のモデルケースをもとにディスカッションする形式で研修を行いました。また今回はサブテーマ「～ひとりじゃない。みんなでサポートしていくよ～」を設け、参加者の方がグループに分かれて各部門の専門家と一緒に話し合いました。モデルケースの説明の合間に薬剤部やリハビリ等各部門による解説もはさむことで、患者さん一人で考えるのではなく、みんなが力を合わせてサポートしていけることが伝わっていると思います。

ディスカッションでは参加者の方主体に、実際に困っていること・知りたいことを話してもらい情報共有をしてもらいました。日頃から思われている事を始め活発な議論をしつつ、和気あいあいとした雰囲気でも盛り上がりました。患者さん・地域の方・病院職員といった在宅呼吸ケアを支えるメンバーで情報共有ができた有意義な時間だったと思います。

また、会の中では酸素業者の方より「災害時の注意点」についても講義して頂きました。開催日の前週には台風19号が関東地方で大きな被害をもたらしたこともあり、皆さん真剣に聴いておられました。



この会に参加いただいた方もそうでない方も、人工呼吸器などを使うと外出はしづらくなるのでは?災害など緊急の時にはどうなるのか?等、呼吸ケアについて不安に思われることは尽きないかと思えます。その際はチーム一丸となって考えてまいりますので呼吸ケアチームにご相談ください。



当院の臨床検査科には10名の臨床検査技師が在籍しており、検体検査・細菌検査・生理検査の業務を行っています。またこれら日常業務に加え、院内の感染対策、褥瘡対策、栄養サポートなどにおけるチーム医療の一員として積極的に活動しています。

検体検査

検体検査では精密な分析装置と顕微鏡を用いて成分の分析や細胞の観察などを行っています。院内で測定可能な至急検査においては、採血から約1時間以内での結果報告を行っています。

検査内容

●生化学・免疫検査

生化学自動分析装置を用いた肝機能や腎機能検査。全自動発光酵素免疫測定装置を用いた各種感染症、ホルモン、がん関連検査

●血液検査

生化学自動分析装置 赤血球、白血球、血小板の数の測定や血液細胞の分類・観察・凝固・線溶検査

●一般検査

尿、便、脳脊髄液、胸水、喀痰、鼻汁などの検査

●輸血検査

輸血関連検査と輸血にともなう副作用や感染症の管理業務



生化学免疫自動分析装置

微生物検査

微生物検査室では、肺炎や尿路感染など感染症の原因となる微生物を検体（痰や尿など）から検出し、どのような抗菌薬（抗生物質）が効くかを検査しています。

当院の特徴としては、最先端の同定機器である質量分析機を導入したことにより、従来一晩かかっていた同定検査が十数分で分析可能となり、早期に適切な抗菌薬選択のための一助となっています。また、院内感染対策チーム・抗菌薬適正チームの一員として活動し、院内感染対策活動や抗菌薬適正使用支援活動も行っています。

検査内容

●一般細菌検査

塗抹検査（グラム染色）、同定・感受性検査

●抗酸菌検査

塗抹検査（蛍光染色/抗酸菌染色）、同定・感受性検査

●PCR検査（遺伝子）

結核菌、非定型抗酸菌

●迅速検査

質量分析装置高感度インフルエンザ、RSウイルス、hMPVウイルス、アデノウイルス、GAS、尿中レジオネラ抗原・肺炎球菌抗原、糞便ノロウイルス、ロタ・アデノウイルス

●入院時耐性菌検査（MRSA・VRE・ESBL・CRE・MDRP等）



培養



質量分析装置

生理検査

生理検査室では心電図、血圧脈波、超音波、呼吸機能、脳波、誘発・針筋電図、聴力検査や、終夜（または簡易）睡眠ポリグラフ検査など多くの検査を行っています。よく行われる検査を紹介します。

超音波検査

人の耳で聞こえないほどの高い周波数の音を超音波といいます。超音波が体内の臓器で反射する性質を利用して作成された画像を用いて検査を行います。当院では心臓、腹部、血管、甲状腺、関節などの検査を行っています。非侵襲的で繰り返し行っても安全な検査です。



呼吸機能検査



当院では呼吸機能、呼吸抵抗、呼気一酸化窒素の3種類の装置があり、これらを組み合わせて検査を行っています。画像検査であるCTやレントゲンとは違い、唯一肺の機能を診る検査です。

脳波検査

頭に電極を貼り、脳から発生する微弱な電流を観察します。てんかんや意識障害、脳の器質的異常の診断に役立ちます。高齢者のてんかんは認知症と間違えられやすいので、脳波の検査で確認します。当院は岡山大学病院てんかんセンターの診療連携病院で、専門医が診断しています。



第73回 国立病院総合医学会 ベストポスター賞受賞



NHO南岡山医療センター

1看護部外来 2栄養管理室 3地域医療連携室 4薬剤部 5小児科 6皮膚科
7耳鼻咽喉科 8呼吸器・アレルギー内科 9NHO岡山医療センター薬剤部

○ 黒岡 昌代¹ 鳥家 泰子¹ 三宅 千帆¹ 武田 美幸¹ 伊東 陽子² 川端 宏輝³ 田村 浩二⁴ 高橋 洋子⁹
産賀 温恵⁵ 林 知子⁵ 水内 秀次⁵ 藤原 愉高⁶ 赤木 博文⁷ 木村 五郎⁸ 谷本 安⁸ 宗田 良⁸



【はじめに】

2015年にアレルギー疾患対策基本法が制定され、アレルギー疾患を有する者が、その居住地域に関わらず適切なアレルギー疾患医療を受けられる体制を整備するために、各都道府県でアレルギー疾患医療拠点病院(以下拠点病院とする)が指定されることとなった。当院は2018年9月に岡山県における拠点病院に指定され、その事業である「医療従事者向け研修会(人材育成)」として「食物アレルギーと緊急時対応」研修を開催した。研修開催前後に実施したアンケート調査から拠点病院として取り組むべき課題が示唆されたため報告する。

【方法】

研究目的: 拠点病院として取り組むべき課題を明らかにする
研究期間: 2018年12月から2019年2月
研究対象: 「食物アレルギーと緊急時対応」研修への事前申込者104名、及び当日参加者95名のうちアンケート調査票を回収できた81名
研究方法: アンケート調査を基に研修を振り返り考察する
当該施設の倫理委員会の承認を得た。

【結果・考察】

研修の概要

研修のポスター



講義



ロールプレイのシナリオ(一部)



ロールプレイ

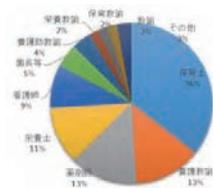


グループワーク

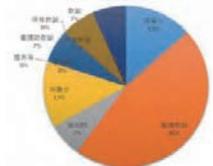


研修前アンケート調査結果

職種 n=104

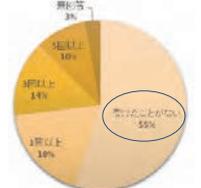


エピベン®使用を想定した研修受講経験3回以上の職種 n=15

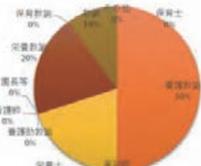


*アドレナリン自己注射薬、以下エピベン®とする

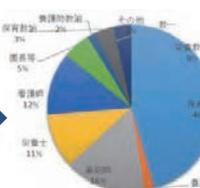
エピベン®使用を想定した研修受講経験 n=104



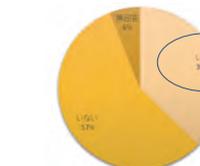
エピベン®使用を想定した研修受講経験5回以上の職種 n=10



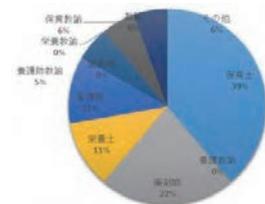
エピベン®使用を想定した研修受講経験のない職種 n=57



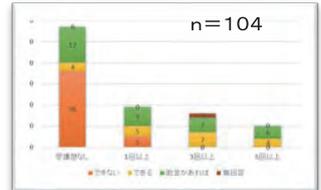
エピベン®を携帯している子どもの在籍の有無 n=67(施設)



エピベン®の携帯をしている子どもが在籍しているが、エピベン®使用を想定した研修受講経験のない職種 n=18



エピベン®を適切に使用できますか(研修前)

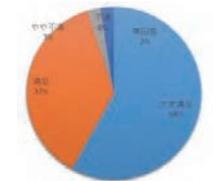


研修前アンケート結果

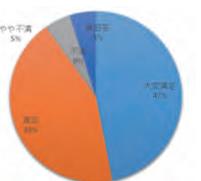
エピベン®使用を想定した研修(以下研修とする)の受講経験がなかったのは57名で、そのうち保育士の割合が最も多かった。研修受講経験が3回以上または5回以上と回答したのは学校関係者に多く、このことから学校関係者に比べ保育関係者は研修受講機会が少ないことが推察された。また、エピベン®の携帯をしている子どもが在籍する施設のうち18名は研修受講経験がなく、重要な課題と考えられた。「エピベン®を適切に使用できますか」との問いには41名が「できない」と回答し、そのうち36名は受講経験がなかった。しかし、受講経験が3回以上になると、「できない」との回答は0名となっている。

研修後アンケート調査結果

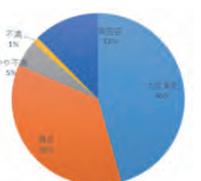
講義について n=81



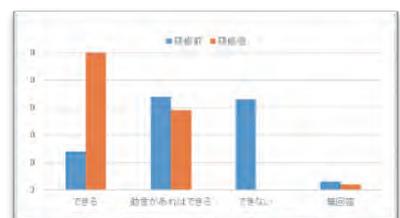
ロールプレイについて n=81



グループワークについて n=81



エピベン®を適切に使用できますか



*研修後のアンケート結果については、事前申込みのなかった参加者も含まれる

研修後アンケート調査結果

講義、ロールプレイ、グループワークのいずれも80%以上が「大変満足」または「満足」と回答し、満足度の高い研修を実施できたと考える。自由記載では「シミュレーションが大事だと思った」「職員全体で共通理解をして対応できるようにしたい」という回答がみられた。申込者のうち実際研修へ参加した84名のうち33名(39%)が研修前は「できない」と回答していたが、研修後の調査では、「できない」は0名となった

【結論】

1. 保育関係者は学校関係者に比べ、エピベン®の使用を想定した緊急時対応研修の受講機会が少なかった
2. エピベン®の携帯をしている子どもが在籍している施設からも受講経験がないとの回答があり、本研修に参加のなかった施設でも同様のことが推察された
3. アレルギー疾患患者の安全のために、拠点病院として効果的な研修の実践が求められる

*本演題発表に関連して、開示すべきCOIはありません。

令和元年11月3日(日曜日)はやしま生涯学習まつり「いきいき広場」に参加させていただきました。

はやしま生涯学習まつり「いきいき広場」は約40年の歴史があるとの事ですが、南岡山医療センターとしては昨年と今回で2度目の参加となります。当日の天候は残念ながら快晴とはならず、小雨がポツポツ降っておりましたが、多くの地元の方が参加されており活気のあるものとなりました。



南岡山医療センターの出し物としては部署ごとに健康相談、バルーンアート、血管年齢測定、栄養相談、骨密度測定、AED体験、看護体験などがあり、リハビリテーション科としては昨年度と同様に身体測定を実施させていただきました。今回、参加するスタッフの人数が増えたことにより、昨年度よりも測定項目を増やし、立ち上がり能力、握力、膝伸展筋力測定をさせていただきました。

身体測定に参加していただいた方の多くが女性の方でした。握力測定では年齢別の全国平均値と比較し同等かやや低い傾向であり、立ち上がり能力から推測した運動レベルについては歩行からジョギング程度でそれ以上の負荷が強い運動(ランニングなど)を行うにはやや下肢筋力不足の方が多いという結果となりました。

そして、参加していただいた女性の方には日常生活において膝の痛みを訴えられる方が複数名おられました。膝の痛みを症状とする代表的な疾患として変形性膝関節症があります。中でも60歳前後の女性が誘因なく膝の痛みや運動障害、膝に水がたまるなどの症状を訴え、明らかな原因が認められないものを一次性的変形性膝関節症といいます。危険因子としては加齢・女性・肥満・筋肉の衰え・膝の負担の大きいスポーツの習慣・O脚などの下肢の変形などがあり、今回膝の痛みを訴えられた参加者の方と共通する点がいくつかみられました。

変形性膝関節症の治療として薬物療法、物理療法、運動療法、外科的手術などがありますが、膝の痛みが強く日常生活を過ごすのが辛いという方がおられましたら、まずはお近くの整形外科を受診して医師に相談してみてください。南岡山医療センターにも整形外科がございますので膝関節の痛み以外にも骨・関節・筋肉・靭帯・腱などの運動器に関してお困りの方がおられましたらお気軽にご相談ください。

今回、悪天候にもかかわらずご参加して下さいました地域住民の方々、ご協力いただいた関係者の方々に深く感謝申し上げます。今回の経験を活かし地元住民の方の健康的な生活を支援できるようにパワーアップして来年度も参加させていただけたらと思います。

リハビリテーション科 馬屋原 良樹

神経・筋(神経難病)診療初級・入門研修

臨床研究部長 坂井 研一

令和元年11月22、23日の2日間、南岡山医療センターを会場にして、国立病院機構主催の良質な医師を育てる研修「神経・筋(神経難病)診療初級・入門研修」が開催されました。

北海道から鹿児島までの広範囲の施設の先生方に参加いただきました。



ロールプレイで患者役と医師役を行うことで、疾患や診察の理解が深まると好評の研修です。全国から集まった教育好きな国立病院機構の脳神経内科医師に熱心に指導していただきました。脳神経内科は、脳血管障害やパーキンソン病、アルツハイマー病などの認知症、てんかん、頭痛など様々な疾患を診察しますが神経難病を志す医師は少ないのが現状です。このような研修を通じて神経難病を診る医師が増えてくれればと期待しています。



教育担当師長の共育レター

vol.7
2019年12月9日

職員の教育研修の内容、様子をお知らせします

新人看護師 医療安全 (報連相と重要薬剤・麻薬の取り扱い)

日時：2019年10月15日(火) 13:30~15:00

報連相(報告・連絡・相談)とは

報告	上司からの指示や命令に対して、部下が経過や結果を知らせること。
連絡	上司や部下にかかわらず、簡単な情報を関係者に知らせること。自分の意見や推測は入れない。
相談	判断に迷う時や、意見を聞いて欲しい時に上司や先輩、同僚に参考意見を聞き、アドバイスをもらうこと。

報連相の意味を知り、できる！を実感しました。SBARを演習し、緊張する報告を頑張ります！

SBARカード(一部改訂)

SBARで報告しよう!			
月	日	時	伝えたいことが伝わるために
C(状況)			
〇〇先生ですか? △△病棟の看護師〇〇です。			
クッションことば:お忙しいところすみません。今、お電話大丈夫ですか?			
背景: さんのことと			
S(事象)			
*報告 *連絡*相談 があります。			
(*心配 *不安 *危険) です。			
B(背景)			
診断名:	性別:		
入院日:	手術名・検査名と施行日:		
検査結果:			
バイタルサイン:	脈拍	血圧	体温
その他:	SPO2		
A(評価)			
〇〇〇〇の状況を〇〇〇〇と考えます。			
〇〇〇〇が必要と考えます。			
〇〇〇〇を希望させていただきます。			
〇〇〇〇をお断りしたいと思います。			
感謝のことば:ありがとうございます。			

メモ:口頭指示が出た場合は、口頭指示書に記載する。

新採用研修で受けた、薬剤部長さん講義資料を用いて、復習しました!



岩本医療安全係長さんから、自分たちが経験しやすいインシデントやその防止対策について具体的に学びました。インシデント報告の大切さも実感しました!

確認行動!



レベルIV リーダーシップ 部署内の問題解決

日時：2019年10月25日(金) 13:30~14:30

研修生の声

問題解決シートを活用し、問題解決の流れ、実践、振り返りを行うことができた。後半に向けての行動修正が明らかにできた。リーダーシップを発揮して、問題解決を行っていききたいけど…相手に思いをつたえることの難しさ、それが課題。



参考文献
著：佐藤和弘先生

持ち寄った問題解決シートを用いて、問題解決に向けての取り組みを話し合いました。リーダーシップを発揮して実践する…難しいこと、大変なこと、思いを共有し、アドバイスしあうことができました。成果を期待します!

業務技術員 感染防止対策 ~いいとこ発見隊~

日時：2019年10月30日(水) 13:30~14:00



療養介助職 第3回

倫理・療養生活の対応を考える

日時：2019年11月6日(水) 13:15~14:00



感染防止対策のいいとこ発見しました!



復習も行いました!

第1回目・2回目に続き、患者さんの療養生活の中での倫理的配慮、障害者虐待防止について学ぶ事例検討を行いました。日頃のケアの場面を思い出しながら話合うことで、患者さん、相手の気持ちになって考えることの大切さや、プライバシーの保護など基本的なケアの重要性を再確認することができました。

日常に慣れないで初心に戻ることも大切



健康教室を開催しました

栄養管理室 栄養士 森廣 真菜

12月17日（火）に令和元年度第三回目の健康教室食事会「高齢者引きこもりにならないために＝フレイル・サルコペニアについて＝」を開催しました。

加齢に伴う筋力低下は閉じこもりや意欲・認知機能の低下に繋がります。定期的な運動やレジスタンス（抵抗）運動による筋力や筋肥大、筋量の増大が認められており、引きこもりの予防に運動が重要であると考えられています。

今回は理学療法士の則包先生より、自宅でできる運動や、運動を中止する基準などについて実技をまじえてお話いただきました。

また筋力アップに栄養不足は大敵です。栄養士からはカルシウムやビタミンDといった骨や筋肉を強くする役割のある食材、また少量でカロリーや栄養素をプラスする方法などを紹介しました。この日のメニューはぶりの照り焼き、南瓜煮付け、キャベツともやしの和風和え、果物です。ぶりはビタミンDが豊富に含まれています♪



健康教室はご好評いただき、毎回多くの方に参加していただいています。健康教室に参加して社会交流と健康的な食事で認知症予防してみませんか？

【次回予定】 3月24日（火）

ピンピンコロリといくために

★お申し込み方法★

お電話にて直接お申込みください。（連絡先）南岡山医療センター栄養管理室
ダイレクトイン（086）482-1128
内線：3224、3225、3240



治験管理室からのお知らせ

アルツハイマー病は、神経細胞内にアミロイドベータが沈着することで、機能異常が出現するという仮説があります。

早期（Prodromal から軽度）のアルツハイマー病の方を対象とした治験薬（組換えヒト抗アミロイドベータモノクローナル抗体である gantenerumab）を使用した治験を実施しています。

治験薬の使用で神経細胞のアミロイドベータが減少することを期待する治験です。

【デザイン】

並行群間二重盲検試験

- ・ gantenerumab 高用量注射グループ
- ・ gantenerumab 低用量注射グループ
- ・ プラセボ注射グループ

当院では、治験に積極的に参加しております。

対象患者様がおられましたら是非ご紹介ください。

【主な参加基準】

50歳以上90歳以下の方

MMSE score(22点以上)

認知機能に影響を与える可能性があるアルツハイマー病以外の他の疾患の所見がない方

統合失調症、統合失調症様感情障害、大うつ病又は双極性障害の既往又は合併がない方

※上記以外にも詳細な基準がございます。精査させていただいた結果、基準を満たさなかった場合には、治験へご参加いただけない場合がございますのでご了承ください。

また、治験に関する情報は随時更新しています。下記QRコード、または、URLにアクセスください。

https://minamiokayama.hosp.go.jp/medical/index_4_4.html

★お問い合わせ 南岡山医療センター 治験管理室（受付時間 8:30～17:15）
TEL 086-482-1121(内線1149)
FAX 086-483-0055



クリスマス聖歌隊による演奏会がありました

12月16日に、岡山医療センター附属岡山看護助産学校の学生が結成した聖歌隊による演奏会が開催されました。クリスマス衣装の学生の皆さんがキャンドルライトを持って病棟を訪れ、ハンドベル演奏や合唱を行いました。毎年来て下さる聖歌隊を、患者様だけではなく病院職員もとても楽しみにしています。今年もクリスマスの定番である“赤鼻のトナカイ”や“きよしこの夜”などの演奏を、入院患者さんだけでなく、病院職員も一緒に楽しむ事が出来ました。



素敵な時間をプレゼントくださった岡山看護助産学校の学生並びに教職員の皆さん、ありがとうございました。





外来診療担当医師一覧表



独立行政法人国立病院機構
南岡山医療センター

TEL 086-482-1121 (代表)
(病診連携室直通) 086-482-3031
(病診連携室FAX) 086-482-3051

休診日：土・日・祝日
年末年始(12/29~1/3)
但し、急患の方はこの限りではありません。

受付時間 8:30~11:30 (予約外の方)
8:30~予約時間 (予約の方)

診療科	診療時間	月	火	水	木	金	
一般内科	初診・再診	8:45~12:00	藤原(努)	大上	石賀	富田	谷口
	再診		-	関藤	-	-	-
生活習慣病外来 循環器内科	初診・再診	8:45~12:00	富田	-	-	-	富田
呼吸器内科	初診・再診	8:45~12:00	谷本	谷本	-	谷本	木村
			藤井	木村	大上	藤井	大上
			石賀	田中	藤原(義)	田中	-
			藤原(義)	石賀	-	-	-
再診	13:30~17:00	-	-	河田	-	河田	
脳神経内科	初診・再診	8:45~12:00	田邊	坂井 (もの忘れ)	麓	原口	逸見
	再診		-	-	下園	-	井原
消化器内科	初診・再診	8:45~12:00	-	田邊	-	坂井	-
皮膚科	初診・再診	8:45~12:00	藤原(愉)	藤原(愉)	藤原(愉)	藤原(愉)	藤原(愉)
	再診	15:30~17:00	藤原(愉) (受付16:30まで)	-	-	-	-
	再診	16:00~17:00	-	-	-	藤原(愉) (予約)	-
耳鼻咽喉科	初診・再診	8:45~12:00	赤木	赤木	赤木	赤木	赤木
整形外科	初診・再診	8:45~12:00	藤田	藤田	-	藤田	藤田 (再診予約のみ)
リハビリテーション科 (摂食嚥下専門)	初診・再診	9:30~10:00	-	-	谷本 (紹介のみ)	-	-
小児科	初診・再診	8:45~10:00	水内	-	-	-	-
		10:00~12:00	吉永(1・3・5週) 産賀(2・4週)	産賀	吉永	井上	水内
小児神経科	初診(予約)	8:45~12:00	-	吉永	吉永	井上	-
	再診	13:30~15:30	-	-	吉永	-	-
		15:30~17:00	-	井上	-	井上	-
アレルギー外来	初診(内科)	10:00~11:00	-	-	谷本	-	-
	再診(小児科)	8:45~12:00	水内 (~11:00)	産賀	-	-	水内
	再診(皮膚科)		藤原(愉)	藤原(愉)	藤原(愉)	藤原(愉)	
	初診(予約)・再診(内科)	14:00~16:00	谷本・木村	-	-	-	-
	初診(予約)(小児科)	14:30~15:30	水内	-	-	水内	-
	再診(小児科)	15:30~17:00		-	-	-	水内
再診(皮膚科)	15:30~17:00	藤原(愉)		-	-	-	-
喘息外来	再診	14:00~16:00	-	-	-	谷本・木村	-
呼吸不全外来	初診	10:00~11:00	-	-	-	河田	-
	初診・再診	14:00~16:00	-	-	-	-	-
睡眠時無呼吸外来	初診	9:30~10:00	-	石賀	-	-	-
	初診・再診	11:00~12:00	-	-	-	-	谷本
禁煙外来	初診・再診	13:30~16:00	-	-	-	大上	-
間質性肺炎外来	初診	10:00~11:00	-	-	-	-	谷本
	再診	8:45~12:00	水内 (~11:00)	-	-	-	水内
		14:30~15:30	水内	-	-	-	-
歯科	初診・再診	8:45~12:00	澁谷	松崎	吉山	大原	山路
	再診	13:30~17:00	-	-	-	-	-
検診 予防接種	乳幼児健診	14:00~14:30	-	担当医	-	-	-
	予防接種	14:30~15:00	-	担当医	-	-	-
		14:30~15:30	-	-	-	-	担当医

紹介状をお持ちの方は、事前に **病診連携室** で予約を行ってください。
(予約無しで当日に紹介状をご持参される場合、お待ちいただくことがあります)
初診(予約)を受診の方は、事前に **病診連携室** で予約を行ってください。

病診連携室

086-482-3031



独立行政法人国立病院機構 南岡山医療センター

〒701-0304 岡山県都窪郡早島町早島4066
電話(086)482-1121(代表)
FAX(086)482-3883
<https://minamiokayama.hosp.go.jp/>

